

和の光

宝塚市立西谷中学校



夕焼け

吉野 弘

いつものことだが
電車は満員だった。
そして
いつものことだが
若者と娘が腰をおろし
としよりが立っていた。
うつむいていた娘が立って
としよりに席をゆずった。
そそくさととしよりが坐った。
礼も言わずにとしよりは次の駅で降りた。
娘は坐った。
別のとしよりが娘の前に
横あいから押されてきた。
娘はうつむいた。
しかし
又立って
席を
そのとしよりにゆずった。
としよりは次の駅で礼を言って降りた。
娘は坐った。
二度あることは と言う通り
別のとしよりが娘の前に
押し出された。

可哀想に
娘はうつむいて
そして今度は席を立たなかった。
次の駅も
次の駅も
下唇をギュッと噛んで
身体をこわばらせて——。
僕は電車を降りた。
固くなってうつむいて
娘はどこまで行っだろう。
やさしい心の持ち主は
いつでもどこでも
われにもあらず受難者となる。
何故って
やさしい心の持主は
他人のつらさを自分のつらさのように
感じるから。
やさしい心に責められながら
娘はどこまでゆけるだろう。
下唇を噛んで
つらい気持ちで
美しい夕焼けも見ないで。

(吉野弘 詩集より)

優しい心の持ち主は時に受難者となる

校長 筒井啓介

この詩は今から50年以上も前に書かれたもので、中学校の国語の教科書にも載ったことのあ
るものです。そして、世代を超えて多くの人の心を引き付けていると言われています。

作者は満員電車に乗って立っていました。少し離れた座席には若者と娘が坐っていて、その前
に年寄りが立ちました。

うつむいていた娘は立ち上がって席を譲りました。年寄りはそのそくさと坐って、次の駅が来る
と降りていきました。娘が席に坐ったところ、別の年寄りが押されてきたので、また席を譲りま
した。年寄りは次の駅で「ありがとう」と礼を述べて降りました。

ここで終われば詩にはならなかったのですが、2度あることは3度あるものです。別の年寄り
がまた座席の前に立ってきたのです。娘は、今度は席を立とうとしません。次の駅になってもそ
の次の駅になっても、下唇をギュッと噛みしめ体をこわばらせてうつむいたままです。

作者は電車を降りましたが、娘のことが頭から離れません。娘は窓の外にひろがる美しい夕焼
けに目をやることなく、どこまで電車に乗って行くのでしょうか。

お年寄りのことを考えて席を譲ろうと思ったのですが、譲ることができなかった。譲らなかつ
た自分が情けなくて下唇を噛んでうつむき、「自分の弱さ」を見つめつづける娘です。

**作者は「やさしい心の持主は、いつでもどこでも、われにもあらず受難者となる」と思いまし
た。**

「われにもあらず」というのは、「自分から望んでのことではなくて」という意味で、受難者
というのは、「本来ならば受けなくていい苦しみを、引き受けている人」のことです。

**「席を譲らずに坐っている自分」をそんなに責めることはないのですが、体をこわばらせて辛
さをこらえている。その姿に「人としての優しさ」を感じて、満員電車のなかでたまたま出遭っ
たこの光景を、「美しい夕焼け」を目にしたときと同じように、心あたたま光景として思い起
こす作者です。**

ある詩人は、「今、自分のことしか考えられない、わがまま勝手な人が多くなっている。そう
言われることが多いが、心優しい人たちが増えている。特に2011年3月11日の14時46
分に起きた東日本大震災の後、優しい心の持ち主が全国に広がっている。辛い思いをしている人
たちの気持ちが身に染みて分かって、手を差し伸べる人たちが大勢いる。しかし、手を差し伸べ
ることができないこともあって、そういうときは、いたたまれない気持ちになっている。吉野弘
さんの詩に多くの人が引きつけられているのは、自分の持つそういう弱さ、いたたまれずにい
る時の自分を、鏡のように写し出してくれているからだろう。」と述べています。

西谷中の皆さんも心優しい生徒が多いので、バスや電車に乗った時、また友人関係などにおい
て似たような経験をしたことはないでしょうか。**優しさがゆえに、時には受難者となることもあ
るかも知れませんが、他人のつらさを受け止める優しさを大切にして欲しいと願います。**

■仲間と共に学ぶ楽しさ～3年生 保健体育～

寒さに身が引き締まる中、西谷中の体育館では柔道の授業が
行われています。礼節を重んじながら、受け身や寝技など技術
的なことを学び、仲間と共に協力しながら授業がテンポよく進
められていました。その様子を写真で紹介します。(1月22日)

